コミュニティ施設における屋外 スペースの構成と利用実態 —横浜市地区センターを対象として—

THE MAKEUP AND USE OF OUTDOOR SPACE IN THE COMMUNITY FACILITIES — For the ward center in Yokohama City —

広田直行 — *1 松本 豊 — *2

キーワード:

屋外スペース, 屋外利用, コミュニティ施設, 内外一体, オープン化, セキュリティ

Keywords:

Outdoor space, Outdoor use, Community facilities, One with the inside and outside, Opening, Security

Naoyuki HIROTA — *1 Yutaka MATSUMOTO — *2

This study has revealed some information that will lead to the useful improvement of outdoor space in community facilities.

1. Outdoor space can be classified into ten types.
2. The cooking room with the door faced the outside can be used comfortably, and the power and water supply in the outside can make it more comfortably.
3. Furniture in outdoor space can be useful for making the place to communicate.
4. Repairing outdoor space contains “renewing rooms and their equipment”, “enlarging parking lots” and “building up security”

1. はじめに

1.1 研究の背景と目的

近年, 地域住民どうしのコミュニケーションの希薄化が問題となっている。そのため, 住民が気軽に利用できるコミュニティ施設では, 様々なイベントが企画され, 多くのサークル活動で地域の交流が図られている。なかでも, 屋外を使用した活動は地域住民に対して視覚的にもオープンであり, 建物内の面積不足を補う上でも有効である。施設内部の計画に限らず, コミュニティ施設に屋外利用の促進を含めた施設計画が重要になると考える。

本稿では, コミュニティ施設の屋外スペース^{注1)}に着目し, 屋外スペースの現状を調査, 分析する。これよりコミュニティ施設における屋外スペースの利用実態を明らかにし, 屋外スペースの利用向上につながる計画的指針を得ることを目的とする。

1.2 研究の対象

本稿では, 横浜市地区センターを研究対象とする。横浜市は, 一般に「横浜方式」と呼ばれる独自のコミュニティセンター構想を進めており, 30年以上に渡る施設の変遷を確認することができる^{文1)}。また, コミュニティセンターには施設機能に大きな差は無いものの, 他施設と複合している事例が多く, 敷地条件によって建物形態も様々である。対象事例は, 横浜市地区センター全80事例の内, 実態調査により屋外スペースが確認できた57事例から, 調査協力の得られなかった6事例を除く, 51事例とする。対象事例の概要を表1に示す。

1.3 研究の方法

分析・考察は, 横浜市から提供された各事例の竣工図面をもとに, 施設内・外部の利用実態調査, および館長または副館長に対するヒアリング結果より行う。手順は以下の通りである。

- ① 竣工図面と実態調査から抽出された屋外スペースを空間属性の

違いで分類する。

- ② 分類した屋外スペースについて, 設置率, 利用行為, 利用状況を求める。
 - ③ 利用行為によって, 屋外利用に影響する内外の連続性やセキュリティ方法を明らかにする。
 - ④ 屋外スペースを改修している事例から, 運営上の要求に対応した計画的知見を得る。
 - ⑤ 屋外スペースの利用向上につながる計画的要因として整理する。
- 調査期間: 2008年2月～2008年8月

2. 空間属性の違いにみる屋外スペースの分類

配置図および平面図と実態調査から, 屋外活動が可能であると判断できる屋外スペースを抽出する。屋外スペースは建物との位置関係や周辺環境と密接に関係しており, 空間属性に違いがある。これらの空間属性の違いにより, コミュニティ施設の屋外スペースは, ①前庭, ②中庭, ③後庭, ④広場, ⑤屋上, ⑥テラス, ⑦プロムナード, ⑧ピロティ, ⑨スポーツ場, ⑩隣接公園の10種類に分類できる^{注2)}。屋外スペースの分類を表2に, 分類された屋外スペースの1例を図1に示す。表2より屋外スペースには, [前庭]や[広場]など比較的, 建物形態に関わらないものと, [中庭]や[プロムナード], [ピロティ]など建物形態によって生じるものがあることがわかる。

3. 屋外スペースの空間属性と利用状況の関係性

3.1 空間属性の違いが開催イベントにおよぼす影響

屋外スペースの利用方法や頻度は, 事例間や空間属性の違いによって異なる。表2の分類項目ごとに各事例で屋外スペースの設けられている割合を「設置率」として, ヒアリングより得られた屋外スペースの「利用率」^{注3)}と合わせて図2に示す。また, 屋外イベン

*1 日本大学生産工学部建築工学科 准教授・博士(工学)
(〒275-8575 千葉県習志野市泉町1-2-1)

*2 日本大学大学院生産工学研究科建築工学専攻 博士前期課程

*1 Assoc. Prof., Dept. of Architectural Engineering, College of Industrial Technology, Nihon Univ., Dr. Eng.

*2 Graduate Student, Dept. of Architectural Engineering, Graduate School of Industrial Technology, Nihon Univ.

トに関連して利用されることが多い施設内部の室を表3に示す。

(1) 屋外スペースの「設置率」と「利用率」

図2より、屋外スペースの「設置率」は、[前庭]，[広場]，[隣接公園]などの外部空間として独立した形態として成立しやすい屋外スペースが比較的高く，[中庭]，[プロムナード]，[ピロティ]のように建物形態に影響されるものの値が低くなっている。半数以上の事例で設置がみられる形態は，[前庭]のみである。

表1 調査対象事例の概要

事例	地区センター名	建設年	屋外スペースの種類	複合施設	建築面積(m ²)	延床面積(m ²)	敷地面積(m ²)
1	南	1979	前庭・広場・屋上・隣接公園	○	1598	1615	3633
2	金沢	1980	中庭・スポーツ場	○	2682	2303	11181
3	港南	1980	前庭・中庭		775	1096	1486
4	菊名	1980	前庭・広場・スポーツ場	○	1211	1083	3405
5	瀬谷	1980	ピロティ・隣接公園	○	1507	1810	2500
6	末吉	1980	プロムナード・屋上		1169	1638	1987
7	神大寺	1981	前庭・屋上		1148	1689	2143
8	大正	1981	前庭・広場		1303	1686	3462
9	ほどがや	1981	広場・テラス・屋上・プロムナード		1358	2094	3617
10	生麦	1982	前庭・広場・後庭		1275	1760	4031
11	西	1982	前庭・中庭・屋上A・屋上B	○	2870	1853	5579
12	長津田	1982	屋上・プロムナード	○	2308	1697	4722
13	都筑	1984	前庭・スポーツ場	○	2947	2077	3326
14	立場	1986	前庭		922	1707	2558
15	神奈川	1986	前庭・屋上		1312	1712	2054
16	十日市場	1986	前庭		1474	1714	2908
17	上中里	1987	前庭・テラス・屋上		1139	1512	2540
18	永谷	1987	中庭		1496	1763	2905
19	寺尾	1988	スポーツ場・隣接公園	○	1816	1719	3428
20	白山	1988	前庭・後庭		1274	1712	2553
21	藤が丘	1989	前庭・後庭・テラス		1426	1947	2851
22	綱島	1989	前庭・テラス		1321	1723	2503
23	本牧	1989	前庭・隣接公園	○	2798	1824	4189
24	初音ヶ丘	1989	前庭・ピロティ		1255	1794	3148
25	若草台	1992	前庭・テラス		1275	1737	3010
26	神之木	1992	ピロティ	○	1110	1965	2134
27	釜利谷	1992	前庭		1013	1772	1978
28	大岡	1993	前庭・隣接公園	○	3858	2046	8207
29	根岸	1994	隣接公園	○	1336	1966	2031
30	潮田	1994	前庭・プロムナード	○	1204	2096	2268
31	永田	1994	屋上・ピロティ・隣接公園		1175	1847	2598
32	富岡並木	1995	前庭・屋上	○	2093	1776	4071
33	阿久和	1996	後庭	○	1788	1884	4027
34	東永谷	1997	中庭	○	1729	1743	3027
35	篠原	1997	前庭・テラス	○	1426	2016	2874
36	竹之丸	1997	前庭		1107	1863	2494
37	藤棚	1997	前庭・プロムナード	○	2734	2262	4032
38	六浦	1998	屋上	○	1607	2047	2958
39	舞岡	1998	広場		1098	1822	4239
40	中屋敷	1999	プロムナード	○	1844	1749	4557
41	北山田	1999	前庭・広場・屋上		1143	1895	3063
42	今宿	2001	前庭・テラス	○	1823	1747	6458
43	能見台	2001	前庭	○	1588	1804	3707
44	市沢	2002	前庭・中庭・後庭・屋上・隣接公園		1366	1737	3239
45	野庭	2002	前庭・屋上A・屋上B・屋上C・隣接公園	○	1279	1808	3196
46	駒岡	2002	後庭	○	1830	1765	3612
47	上飯田	2003	前庭・屋上		1564	1790	3176
48	踊場	2003	屋上・隣接公園		1233	1775	2501
49	白幡	2004	広場		1076	1805	2171
50	中村	2005	広場		1003	2326	4068
51	希望が丘 (リニューアル)	2007	前庭・広場・スポーツ場		1338	1731	3791

表2 屋外スペースの分類

分類	屋外スペースの名称	屋外スペースの定義
①	前庭	メインエントランス前にある屋外スペース
②	中庭	建物に囲まれた屋外スペース
③	後庭	建物横または後ろにある屋外スペース
④	広場	独立した多目的広場
⑤	屋上	利用可能な屋上(屋上階以外も含む)
⑥	テラス	建物に付属していて内部からアプローチする屋外スペース
⑦	プロムナード	敷地内にある通路型の屋外スペース
⑧	ピロティ	ピロティになっている屋外スペース
⑨	スポーツ場	ゲートボール場などスポーツを目的とした屋外スペース
⑩	隣接公園	敷地に隣接している公園

「設置率」と「利用率」の関係をみると、「設置率」が60%以上と最も高い[前庭]は「利用率」も90%以上となっているが、最も「設置率」が低い[ピロティ]の「利用率」は100%となっている。また、「設置率」が20%以下の[後庭]や[プロムナード]の「利用率」は50%以上の値を示し、「設置率」が2番目に高い[屋上]の「利用率」は、10種中最も低い値となっている。これらのことより、「設置率」と「利用率」の相関性は低いといえる。「利用率」が高い[前庭]は、全32事例中13事例で駐車場と一体に整備されており、いずれの事例においてもイベント時には駐車場も含めた一

図1 屋外スペースと施設配置の関係

体の空間として利用され、スペースを確保している点で共通している。

図2 屋外スペースの「設置率」と「利用率」

(2) 屋外スペースの利用に関わる施設内空間の有効利用

表3より、イベントに関連して利用している施設の内部空間としては料理室が最も多い。イベントで模擬店を出店する際に料理室で材料の下ごしらえをするといった利用である。料理室は、屋外活動を考慮し、屋外スペースとの動線を短くすることや、外部に直接出られる扉を設けることで、利便性が向上する。

会議室は、イベントに関連した講義会場として利用されている場合がみられる。No.12では、[屋上]での「エコ実験」に際して、事前学習のための解説用教室として会議室を使用している。他には、施設内の電源や水道を利用している事例がみられる。No.27では、演奏会でスピーカーを利用する際、会議室から電源を窓越しに利用している。電源や水道などの設備は、予め外部にも設けておくことでスムーズな屋外活動につながる重要な要素である。また、屋外を利用したイベントでは、屋外だけでなく、施設内も有効に利用することで機能やスペースを相互に補完することが可能となる。

3.2 屋外スペースの利用向上につながる設置什器

屋外スペースには休憩のためのベンチや、子供のための遊具等、屋外利用につながる様々な什器の設置がみられる。実態調査より屋外スペースでは表4に示す7種類の什器が確認されている。

(1) 屋外スペースに対応した設置什器

[前庭]では、設置什器に「ベンチ」、「灰皿」、「自販機」、「イス」、「テーブル」がみられ、休憩や飲食を伴う利用者同士の交流が可能となる空間となっている。[中庭]、[後庭]、[広場]には、バスケットゴールやすべり台、シャングリズム等の「遊具」が設置され、子供の遊び場となっている。いずれも人の流れが少ない屋外スペースである。「BBQセット」は2事例でみられ、[屋上]に設置されている事例は移動可能なコンロで、[テラス]に設置されている事例は作り付けのかまどとなっている。少数事例ではあるが、いずれも住民の人気の高い交流機会提供の空間となっている。

(2) 設置什器の変遷

建設年を5年ごとにまとめ、什器の設置数の変遷を図3に示す^{注4)}。図3から什器の設置数は、その種類によらず減少傾向にあることが

わかる。なかでも、「ベンチ」の減少傾向は大きく、浮浪者対策やベンチの盗難事件が誘因となったことがヒアリングで確認されている。

「灰皿」の設置は、施設の建設年によらずばらつきがある。開館当初は設置していたが、近年の分煙化、禁煙化の流れにより、灰皿を撤去している事例もみられる。閉館後にベンチ・灰皿等の什器を施設内に片づけることで対応している事例もあり、什器の設置や管理方法と共に、人々の公共心が低下している社会性にも課題が残されている。

表3 施設内を有効利用している事例

事例	屋外スペースの種類	イベント	利用内容	有効利用している室・設備
1	①前庭	桜まつり	模擬店の出店	料理室
4	④広場	桜まつり	模擬店・演奏会	料理室
3	①前庭	センターまつり	模擬店の出店	料理室
4	①前庭	絵本読み聞かせ	キャパバンカーで絵本の読み聞かせ	会議室
6	⑦プロムナード	寄せ植え教室	草木の寄せ植え	余暇コーナー
7	①前庭	センターまつり	模擬店の出店	料理室
7	①前庭	親子プール	ビニールプールで子供と水遊び	プレイルーム
8	①前庭	センターまつり	フリーマーケット・模擬店の出店	料理室・和室
10	④広場	バーベキュー	バーベキュー・飲食	料理室・会議室
12	⑤屋上	バーベキュー	バーベキュー・飲食	料理室
12	⑤屋上	エコ実験	エコロジーをテーマにした実験	会議室
15	①前庭	センターまつり	模擬店の出店	料理室
16	①前庭	センターまつり	模擬店・野菜の販売	料理室
17	①前庭	センターまつり	模擬店の出店	料理室
18	②中庭	センターまつり	もちつき・模擬店の出店	料理室
18	②中庭	七夕コンサート	楽器を作り中庭で演奏会を行う	工芸室
20	①前庭	センターまつり	模擬店の出店	料理室
21	①前庭	センターまつり	模擬店の出店	料理室
21	⑥テラス	流しそうめん	料理室で麺をゆでてテラスで食べる	料理室
22	①前庭	文化祭	模擬店の出店	料理室
23	①前庭	センターまつり	模擬店の出店	料理室
24	①前庭	もちつき大会	もちつき・飲食	料理室
25	①前庭	センターまつり	模擬店の出店	料理室
25	⑥テラス	センターまつり	外に畳を出してお茶会を行う	和室
26	⑧ピロティ	文化祭	模擬店の出店	料理室
27	①前庭	もちつき大会	もちつき・飲食	料理室
27	①前庭	演奏会	林太鼓・笛・パトーン等の出し物	会議室(電源)
27	①前庭	川をキレイにする会	前庭でイカダを組み、川で遊ぶ	シャワー室・会議室
28	①前庭	南区健康福祉まつり	キャパバンカーでアルコール依存症の講座	会議室
29	①前庭	もちつき大会	もちつき・飲食	料理室
31	⑧ピロティ	モザイクタイル画づくり	タイルの着色・洗浄など	体育館
34	②中庭	センターまつり	模擬店の出店	料理室
37	①前庭	センターまつり	模擬店の出店・フリーマーケット	料理室
39	④広場	センターまつり	模擬店の出店	料理室
40	⑦プロムナード	剪定教室	センターの木を剪定する	洗面所(水道)
41	④広場	もちつき大会	もちつき・飲食	工芸室
41	④広場	子供まつり	水鉄砲で射的遊び	工芸室
42	①前庭	サマーフェスタ	模擬店の出店	料理室
43	①前庭	センターまつり	模擬店の出店	料理室
44	③後庭	センターまつり	模擬店の出店	料理室
49	④広場	プール	プールで水遊び	体育室
50	④広場	レインボーフェスタ	パフォーマンス・大道芸	体育室
50	④広場	連合町内まつり	模擬店の出店	料理室

表4 什器の設置施設数

	設置什器(設置数)						
	ベンチ	灰皿	自販機	遊具	イス	テーブル	BBQセット※
①前庭	13	12	8		3	2	
②中庭	4	1	1	2	3	2	
③後庭	4	1		3			
④広場	7	1		2			
⑤屋上							1
⑥テラス	1				1	1	1
⑦プロムナード	3	2	1				
⑧ピロティ	1	1					
⑨スポーツ場	3	1					
合計	36	19	10	7	7	5	2

※バーベキューセットの略

図3 什物の設置数の変遷

4. 屋外スペースの利用実態からみる計画的課題

4.1 建物内外の連続性による課題

屋外スペースに隣接している屋内スペースを平面図から抽出し、その開放状況を表5に示す。開放状況は、「開館時開放」、「イベント時開放」、「利用時開放」、「常時施錠」の4種類である。また、隣接している屋内スペースを、自由に出入りできる「OS（オープンスペース）」と利用申請が必要な「CS（クローズドスペース）」に分類し、それぞれの開放状況を図4に示す。

表5 屋内スペースと開放状況

屋外スペース	開放状況	屋内スペース	屋外スペース	開放状況	屋内スペース
①前庭	開館時開放	エントランス	⑤屋上	開館時開放	廊下
	イベント時開放	体育室エントランス		イベント時開放	会議室
		体育室			ロビー
開館時開放	エントランス	娯楽コーナー			
	ロビー	料理室			
	娯楽室	余暇コーナー			
②中庭	開館時開放	プレイルーム		利用時開放	プレイルーム
		エントランス		廊下	
	イベント時開放	エ芸室		娯楽コーナー	
③後庭	常時施錠	廊下		常時施錠	料理室
	開館時開放	エントランス	ロビー		
	イベント時開放	娯楽コーナー	プレイルーム		
		体育室	エ芸室		
	常時施錠	エ芸室	階段室		
④広場	開館時開放	廊下	体育室キャットウォーク		
		エントランス	エントランス		
	イベント時開放	体育室	⑦プロムナード	開館時開放	体育室エントランス
⑥テラス	イベント時開放	エントランス	イベント時開放	体育室エントランス	
	利用時開放	エ芸室	開館時開放	エントランス	
	常時施錠	ロビー	⑧ピロティ	常時施錠	体育室エントランス
	常時施錠	図書コーナー	常時施錠	廊下	
⑥テラス	開館時開放	プレイルーム	⑨スポーツ場	開館時開放	体育室エントランス
		料理室		利用時開放	ゲートボール場エントランス
	常時施錠	ロビー	常時施錠	ロビー	
⑥テラス	娯楽コーナー	⑩隣接公園	開館時開放	エントランス	

等、安全性とセキュリティ面の課題が指摘されている。屋上利用を考慮して、地上から直接アプローチ可能な外階段や屋上にステージを備えている事例もみられるが、有効活用するためには安全性とセキュリティ面の課題を解決する必要がある。また、防水層が露出されている事例が多く、利用頻度に伴ってコンクリートやタイルによる保護層を設けることも重要となる。

図5に示す事例では、中庭からアプローチする居室に対してのセキュリティから、管理しにくい中庭への専用出入り口を閉鎖し、事務室前を迂回させる動線を設けることで出入りのチェックを可能としている。

〔テラス〕は、ロビーや図書コーナー等と隣接しているが、「常時施錠」としている事例もみられる。住民交流のための屋外スペースというより、個人の休憩や緑を配した観賞用のスペースとして機能している。（写真1）

〔広場〕、〔スポーツ場〕、〔隣接公園〕では日常的に子供の運動利用がみられる。しかし、これらの屋外スペースの多くは、砂（砂利）敷きになっているため、施設内外の移動により、施設内の床が汚れ

図4 開放状況の違い

図5 事務室前を通って中庭にアプローチする例 (No. 2)

(1) 隣接している屋内スペースと開放状況

表5をみると、図2で屋外利用の割合が高い〔前庭〕、〔後庭〕、〔広場〕、〔プロムナード〕、〔ピロティ〕は、エントランスと隣接している事例が多く、開放状況は「開館時開放」となっている。これらの屋外スペースは施設へのアプローチ空間として機能しており、人の流れが多いため、屋外イベントに適した空間であるといえる。

図2で屋外利用の割合が低い〔屋上〕は、一部をルーフテラスとして利用している事例が多く、様々な屋内スペースと連続している。しかし、開放状況は、「常時施錠」や「イベント時開放」が多く、利用者が常時自由に出入りできるスペースにはなっていない。この要因には、「転落する危険性がある」、「いたずらされる可能性がある」

写真1 テラスに植栽を配している事例

写真2 広場に設置されている防犯カメラ

やすく、清掃コストが増えるという問題が指摘されている。現状では簡易な足拭きマットなどで対応しており、出入口周辺の仕様や床仕上げの選択に課題を残している。同様の問題は、[中庭]や[テラス]などで外床が土や芝のスペースでも生じている。

屋外利用を促進させるためには、建物内外の連続性が重要であり、その際にセキュリティや安全性、屋内・外スペースの床仕上げ等が課題としてあげられる。

(2)「OS」と「CS」の開放状況の違い

「OS」には、エントランス、ロビー、図書コーナー等、「CS」には、プレイルーム、料理室、体育室等があげられる。図4より、開館時に屋外スペースに隣接している「OS」の70%以上が開放されて、施設内外を自由に往来できるようになっているのに対し、「CS」は、20%程度と日常的には開放されていない傾向にあることがわかる。しかし、イベント時には「CS」も50%程度まで外部に対してオープン化し、施設運営上の対応がみられる。表3の通り、イベントと関連して利用される「CS」は、計画段階から屋外スペースとの連続性を考慮して配置することが必要である。

4.2 屋外スペースと事務室の位置関係による課題

前述の通り、施設内外の開放状況には、セキュリティ問題が大きく影響している。特に、近年増加傾向にある複合事例の場合は、管理者にとって施設内部の管理のみでも負担が大きくなっている^{※2)}。加えて複数の屋外スペースの管理となれば、事務室との位置関係のみの対応では困難であることが容易に推測される。そこで、屋外スペースの種類ごとに事務室からの視認状況を調べた結果が図6である。事務室から屋外スペースの視認が可能な割合は、平均15%程度であり、多くの事例で屋外スペースを視認できていない状況にある。最も事務室からの視認状況が良い結果が得られた[テラス]と[前庭]の値も30%に満たない。

実態調査より、事務室からの視認が不可能な屋外スペースに、防犯カメラを設置して対応している事例がある。写真2は事務室から視認不可能な[広場]の状況を監視するため、体育室の外壁に取り付けられた防犯カメラである。屋外スペースの種類と防犯カメラの設置率との関係を視認状況に合わせて図6に示す。

防犯カメラの設置率は、平均12%程度であり、視認不可能な割合とは大きな差がある。ヒアリングでは「安全な施設運営のために防犯カメラの設置が必要」という事例が多数あり、セキュリティ面での対応策が必要である。特に、面積が大きく、建物から離れて設置されている[スポーツ場]や[広場]や[隣接公園]、建物形態上、死角が生じやすい[ピロティ]は視認不可の割合が他より高く、防犯カメラの設置率が平均より高い。また、事務室からの視認性が低い[屋上]は、防犯カメラの設置率が低いものの、日常は屋上へつながら扉を施錠することで、対応している事例がみられる。

この他、事務室から屋外スペースの視認性の割合が低い要因には、屋外スペース方向に開口部を設けることへの配慮不足、柵や掲示板による視界の遮断等があげられている。

4.3 ベビーカー置場の必要性

屋外スペースにおける各事例に共通した問題点として、エントランス付近でのベビーカーの放置がある。実態調査の際、屋外スペースのベビーカーの放置は、51事例中11事例で確認されている。雨天時は雨に濡れ、夏の晴天時はベビーカーの鉄部分が高温になる危

険性がある。横浜市地区センターでは、月に数回「子育て講座^{注5)}」を開いており、「実施日はエントランス付近がベビーカーで埋まってしまい入館者の迷惑になっている」とのことである。施設内部に専用のベビーカー置場を設けている事例は2事例で、その他の事例では、エントランスやロビー等に放置されており、屋外スペースと同様に利用者の移動を妨げている。施設の安全上、利用者のスムーズな移動や出入りの妨げとなる行為を解消するために、ベビーカー置場の設置が急務であり、屋外に設ける場合は直射日光を遮る屋根または庇をつける必要がある。

4.4 改修による屋外スペースの変化

ヒアリング調査および実態調査から、屋外スペースの改修が11事例で確認されている。改修内容を表6より、屋外スペースの改修は、「室・設備の増設」、「駐車場の拡大」、「セキュリティ強化」の3つに分類できる。

15カ所の改修工事のうちほぼ半数の7カ所が「室・設備の増設」であり、屋外スペースへの増築と庇やEVの増設が含まれている。また、広場やベンチ等が置かれた屋外の交流スペースを駐車場に変更する改修工事が3カ所で行われている。横浜市地区センターの基本方針^{注6)}では、利用圏域を徒歩や自転車で行ける範囲としているが、自家用車の普及、利用圏域外からの利用者増等の理由から、駐車場が手狭になっている事例も多い。この他、セキュリティに関係した改修が5カ所で行われ、壁やフェンス・ネット・ポール等を設けて、安全と防犯の強化を図っている。屋外スペースの改修は、施設の管理運営上の要望によるものが強く、地域住民の交流を意図した事例はみられない。

図6 事務室からの視認状況

表6 屋外スペースの改修

事例	建設年	改修内容(新設・仕様変更含む)	改修の分類
1	1979	敷地の境界にフェンスをつける	セキュリティ強化
2	1980	中庭に倶楽室を設置	室・設備の増設
3	1980	中庭に壁をつくる	セキュリティ強化
		中庭にプレイルームを設置	室・設備の増設
		EVを設置	室・設備の増設
		ひさしをつける	室・設備の増設
9	1981	ベビーカー置場にひさしをつける	室・設備の増設
10	1982	広場の周囲に安全ネットを張る	セキュリティ強化
12	1982	広場を駐車場に変更	駐車場の拡大
13	1984	EVを設置	室・設備の増設
		空きスペースにふれあいルームを設置	室・設備の増設
23	1989	プレイルームの砂場に柵をつくる	セキュリティ強化
24	1989	後庭のベンチを撤去して駐車場に変更	駐車場の拡大
26	1992	歩道と敷地の境にポールとチェーンを設置	セキュリティ強化
40	1999	造り付けベンチを撤去して駐車場に変更	駐車場の拡大

5. まとめ

以下に、本稿で得られた、屋外スペースの実態とその利用向上につながる計画的知見を示す。

I. コミュニティ施設における屋外スペースの実態

- (1) コミュニティ施設の屋外スペースには空間属性の違いから、①前庭、②中庭、③後庭、④広場、⑤屋上、⑥テラス、⑦プロムナード、⑧ピロティ、⑨スポーツ場、⑩隣接公園の10種類が抽出できた。
- (2) 「利用率」は高いが「設置率」の低い屋外スペースや、「設置率」は高いが「利用率」の低い屋外スペースが存在し、需要と供給のバランスに差が生じている。
- (3) 屋外スペースの改修には、「室・設備の増設」、「駐車場の拡大」、「セキュリティ強化」があげられ、住民交流を意図した事例はみられない。

II. 屋外スペースの利用向上につながる計画的要因

- (1) イベント関連で利用される「CS」は、屋外スペースと一体利用を考慮した配置とすることが望ましい。
- (2) 料理室は、屋外イベント時の利用を考慮して、外部との動線を短くし、屋外へ直接出られる扉を設けることで利便性が向上する。
- (3) 屋外スペースの床仕上げによっては、施設内の床が汚れやすくなるため、出入口周辺の床仕様に配慮が必要である。
- (4) 屋外スペースの設置什器は、住民同士の交流の場をつくる上で有効であるが、防犯上、設置や管理方法に検討が必要である。
- (5) 電源や水道などの設備は、外部にも設けておくことでスムーズな屋外スペース利用につながる。
- (6) 事務室から視認が困難な屋外スペースには、防犯カメラの設置が有効であり、事務室に屋外スペースが近接している場合は、視界が確保されるよう、開口部や什器の位置に留意が必要である。

【注】

- 注1) 植栽や駐車場、避難バルコニーなどを除く外部空間。
- 注2) ⑩隣接公園は、敷地外であり地区センターの管理に含まれないが、施設に隣接し、広場のように利用できると考えられるため、屋外スペースの分類に含める。
- 注3) 10分類した屋外スペースの設置事例（施設）数に対するイベントに利用している事例（施設）数の割合。
- 注4) 設置数が10事例未満の「遊具」、「イス」、「テーブル」、「BBQセット」を除く。
- 注5) 「子育て講座」は施設によって様々な講座名称がつけられているが、内容は共通して、育児アドバイザーを呼んで、育児相談を行うこととなっている。
- 注6) 「地区センターの基本方針は、地域の住民の活動と交流の拠点となるべく、徒歩や自転車で利用できる、距離にして1～1.5km、人口にして4～6万人の範囲毎に設置を計画している」（「地区センターの設計にあたって、市民局地域振興部地域施設課、1995.6」から抜粋）

【参考文献】

- 文 1) 若木滋、浅野平八、広田直行：コミュニティセンターに設置された機能と室の変遷－横浜方式(1973年～1995年)の分析－、第14回地域施設計画研究シンポジウム、pp107-114、1996.7
- 文 2) 広田直行、山口高嗣：コミュニティ施設の複合化事例にみる共用スペースの構成－横浜市地区センターを対象として－、日本建築学会技術報告集 第29号、2009.2

[2009年1月14日原稿受理 2009年5月18日採用決定]